

組織委員会の大学連携事業 とオリンピック・パラリンピック 教育プログラム

筑波大学体育系教授
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携検討会

真田 久

大学連携について

1. 大学連携の目的

全国の大学と組織委員会が連携し、それぞれの資産を活用してオリンピック・パラリンピック教育の推進や大会機運の醸成等に取り組む

2. 締結校数＜平成27年8月1日現在＞

781大学

3. 主な活動

- 1) オリンピック教育の推進 2) グローバル人材育成
- 3) パラリンピックの理解促進 4) 広報活動 5) イベントの開催

地域巡回フォーラム

- 中国ブロック大会(2014.8.6 広島) 14大学 3自治体 60名
- 四国ブロック大会(2014.8.8 高知) 4大学 1自治体 60名
- 北海道ブロック大会(2014.9.22 北海道) 11大学 2自治体 100名
- 東北ブロック大会(2014.9.23 青森) 12大学 5自治体 100名
- 九州ブロック大会(2014.10.22 福岡) 26大学 10自治体 180名
- 東海ブロック大会(2014.11.5 愛知) 27大学 4自治体 150名
- 近畿ブロック大会(2014.12.8 京都) 54大学 7自治体 170名

- 首都圏ブロック大会(2015.5.23 東京)首都大学東京
テーマ「ボランティア」 530人
- 北信越ブロック大会 (2015.6.19 東京)150人
テーマ「観光・地域の魅力発信」
- 首都圏ブロック大会(2015.7.26)東京芸術大学
「東京2020大会と日本の芸術・文化」約540人
- 四国ブロック大会(2015.8.6 香川)
約150人



連携大学巡回フォーラム in 香川

- 2020年大会の準備状況について

雑賀真（東京大会組織委員会CCO・総務局長）

- 講演「2020年大会に向けて」

秋山エリカ（東京女子大学教授）

- 意見交換

コーディネーター 真田 久（東京大会組織委員会参与 筑波大学教授）

アドバイザー 秋山エリカ（東京女子大学教授）

雑賀真（東京大会組織委員会CCO・総務局長）

深澤昌久（実践女子大学特任教授）

江上いずみ（筑波大学客員教授）

- 第一部 活動報告「これまでの成果と課題」

高知工科大学：龍河洞の外国人観光地向け案内アプリ開発

実践女子大学：

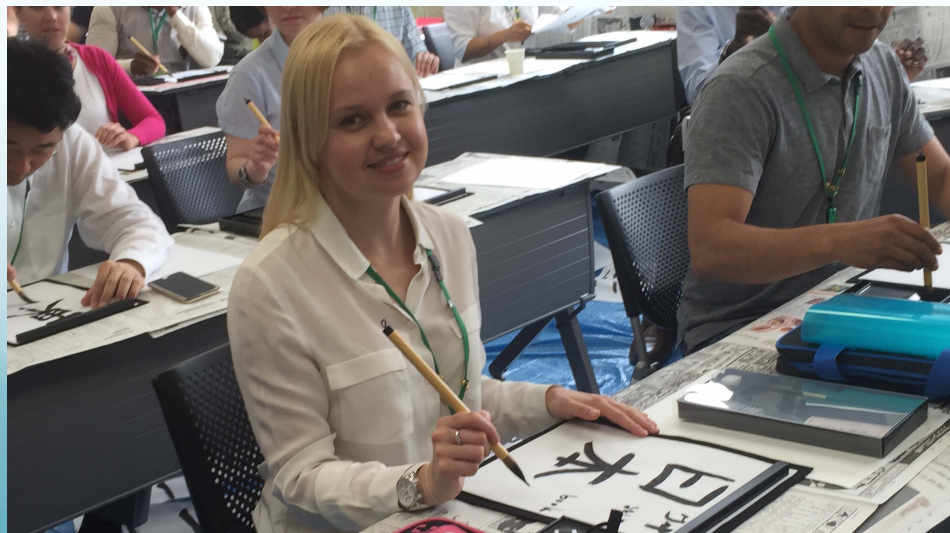
授業におけるオリンピック・パラリンピック教育の展開

- 第二部 今後計画している活動について

地域の文化の発信、ボランティア

教育

- 教育プログラムによる自文化・異文化理解、グローバル人材の育成
- ボランティアの育成専攻を生かした活動（理学療法：パラリンピックアスリートのサポート、栄養学：食文化の研究、教育学：附属学校における教育プログラム、観光学：観光ボランティア、語学系：語学ボランティア）



オリンピック・パラリンピック教育授業のデータベース

- 理念・歴史編

クーベルタンと近代オリンピック

嘉納治五郎と日本のムーブメント

オリンピックとパラリンピックの価値

東京大会2020の基本理念

オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント

- 文化編

グローバルマナー

おもてなし

スポーツと国際理解

一校一国運動

文化プログラム

スポーツボランティア

スポーツによる国際開発

研究

- オリンピズムの解釈と展開(スポーツの社会的価値)
- ボランティアリズムの定着
- 学生アスリートの育成方法(学習との両立)
- イベントの多様性の追究、肥大化の防止
- 高齢者のスポーツ振興
- 新たなオリンピック・パラリンピックムーブメントの創造

地域貢献

- 地域の文化の再発見と発信（文化プログラムとも連携）
- 自治体、企業、メディア、各種学校と連携して人材育成
（市民教育、インターンシップとしても活用、
ホストシティ・タウン構想との連携も）
- 留学生、在住外国人の活用（国際理解教育）



学生の連携と地域のコンソーシアムによる
グローバル人材の育成と地域および大学の活性化
＝オリンピック・ムーブメント創造の担い手
(新たなレガシーに)

